

# American Perspectives: Photographs from the Polaroid Collection



マーシャ・バーンズ  
(カンサス、ニューヨーク) 1986年  
© Marsha Burns

*Marsha Burns*

ポラロイド・コレクション

アメリカ 写真の世紀

2001年6月1日 [金] — 7月1日 [日]

開館時間 火～金曜日 9:30～19:00 土・日曜日・祝日 9:30～17:00  
入室はいつでも閉館30分前まで 初日は10時開展式

休館日 月曜日

入場料 一般 600円 (480円) / 高大生 400円 (320円)  
小中生 200円 (160円)

- ◎ ( ) 内は前売りおよび20名様以上の団体料金
- ◎ 65歳以上の高齢者 (長寿手帳等が必要)
- 身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は入場無料
- ◎ 第2・第4土曜日は小・中・高生入場無料

主催=高松市美術館 / 読売新聞大阪本社 / 美術館連絡協議会 / 西日本放送  
後援=アメリカ大使館 協賛=花王株式会社  
協力=日本ポラロイド / フォトグラフィック・リソース・センター / 全日空  
[This exhibition is made possible by the support of The Polaroid Collection, Polaroid Corporation]

高松市美術館 Takamatsu City Museum of Art  
〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel.087-823-1711



1947年、ポラロイド社の創設者、エドウィン・ランド博士は世界初のインスタント・フィルムを世に問いました。後にインスタント写真の代名詞となる「ポラロイド」の誕生です。「インスタント写真の発明は化学と技術の進歩の賜物であるが、それはこの世界を芸術的な眼で見ているアーティストにとっても、新しい可能性をもたらすことになるだろう」と、発明者であるランド博士は語りました。博士の言葉のとおり、瞬時に映像が再現される、20世紀を象徴するようなこの即興的なカメラは、多くの写真家・美術家を魅了してきました。アンセル・アダムズ、アンディ・ウォーホル、チャック・クロース、ジョイス・テネソン、ルーカス・サマラスなど、20世紀アメリカを代表する珠玉のようなアーティストたちが、ポラロイド社の協力を得て、作品を制作しています。積極的にアーティストを支援し、作品を収集してきたポラロイド社のコレクションは現在、2万3千点に及んでいます。

一方、新しい世紀に踏み込んだ今、良かれ悪しかれ、世界に多大な影響力を持つアメリカは、見過ごしにはできない大きな存在になっています。世界がまだ、ヨーロッパの影響下にあった20世紀のはじめから、特に第二次世界大戦以降、

政治力、軍事力、経済力、生産力、技術力を背景に、アメリカは世界の中心たろうと振る舞ってきました。現代美術および写真芸術においてもまた、20世紀は「アメリカの世紀」と呼んでもいいほどの輝かしい功績を残しています。しかしアメリカの繁栄と共に、様々な矛盾と問題も顕著になっています。変容する家族や環境、コンピュータに代表される情報技術の刷新、人種や民族、犯罪、宗教、セクシュアリティ、ジェンダー、高齢化社会など、多くの問題が複雑に絡まり合って噴出しています。そしてこうした社会的問題は美術家・写真家の主なるテーマともなってきました。アーティストたちは写真というメディアの伝統的な役割や意味を問い直しながら、価値観のドラスティックな転換を迫るこうしたテーマに果敢に挑み、多様な問題提起をしています。

この展覧会はポラロイド・コレクションの中から厳選した79作家159点の作品によって、20世紀を象徴するメディアである写真の役割とその意味の変容を検証し、同時に「アメリカとは何か」「アメリカ写真とは何か」を考えるとともに、この21世紀の可能性を展望しようとする試みです。

【出品作家】

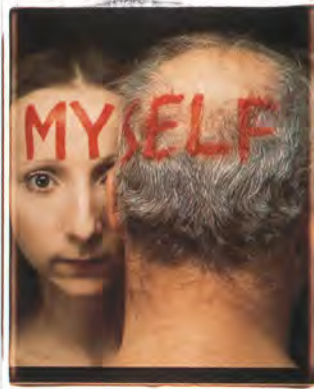
Ansel Adams, Shelby Lee Adams, Peter Beard, Niki Berg, Zeke Berman, Dawoud Bey, Michael Bishop, Drex Brooks, Bill Burke, Marsha Burns, Nancy Burson, Maria Magdalena Campos-pons, Paul Caponigro, Ellen Carey, Mark Chamberlain and Jerry Burchfield, Albert Chong, William Christenberry, William Clift, Chuck Close, Marie Cosindas, Eileen Cowin, Barbara Crane, Fred Cray, Robert Cumming, Alma Davenport, Rita DeWitt, Dennis Farber, Sandi Fellman, Phyllis Galemba, Tyrone Georgiou, Rimma Gerlovin and Mark Berghash and Valery Gerlovin, Ralph Gibson, Peter Goin, Jim Goldberg, Jan Groover, Philippe Halsman, Robert Heinecken, Rick Hock, David Hockney, Béla Kalman, Barbara Kasten, Weston D.Kemp, David Levinthal, Constantine Manos, Robert McClintock, Bob H.Miller, Lloyd E.Moore, Patrick Nagatani and Andrée Tracey, Joyce Neimanas, Elaine O'Neil, J.Wayne Olson, Olivia Parker, James Radke, Vicki Ragan, Victor Raphael, Robert Rauschenberg, John Reuter, Linda Robbennolt, Lucas Samaras, Andres Serrano, Lorna Simpson, Aaron Siskind, Neal Slavin, Gerald Slota, Eve Sonneman, Iris Spellings, Bert Stern, Martin Stupich, Joyce Tenneson, Jerry N.Uelsmann, Catherine Wagner, Melanie Walker, Andy Warhol, Carrie Mae Weems, William Wegman, Jo Whaley, Thomas Young



デイヴィッド・ホックニー〈ヘンプブローク・スタジオの室内、ロンドン〉1986年 ©David Hockney



ウィリアム・ウェグマン〈平行四辺形〉1993年 ©William Wegman



R.ゲルロヴィナ/M.バークハッシュ/V.ゲルロヴィン 〈MYSELF〉1988年 ©Rimma Gerlovin/Mark Berghash/Valery Gerlovin



ウィリアム・クリステンベリー 〈クークラックス・克蘭1〉1982年 ©William Christenberry



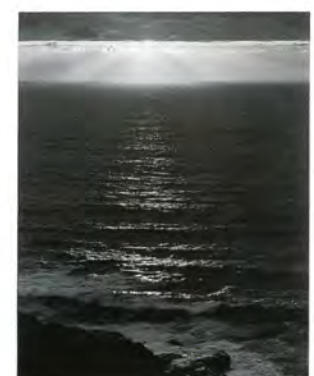
ジョイス・テネソン〈ルカとテオ〉1990年 ©Joyce Tenneson



ルーカス・サマラス〈ポーズをとるモデル〉1980年 ©Lucas Samaras



チャック・クロース〈セルフ・ポートレート〉1987年 ©Chuck Close



アンセル・アダムズ〈落日、ポイント・サー〉 Photograph by Ansel Adams. Used with permission of the Trustees of the Ansel Adams Publishing Rights Trust. All Rights Reserved.

ギャラリートーク

学芸員によるギャラリートーク

6月2日(土)、6月16日(土)午後2時~2階展示室にて

美術館ボランティア civi (シヴィ) によるギャラリートーク

毎日曜日(6月3日,6月10日,6月17日,6月24日,7月1日) 午前11時/午後2時~ 2階展示室にて

次回展覧会のお知らせ

日本アニメの飛翔期を探る アニメ・カルチャー展

7月27日(金) - 9月2日(日)



交通のご案内

JR 四国 - JR高松駅下車、南へ徒歩15分  
 琴平電鉄 - 五町駅片原町駅下車、徒歩10分  
 バス路線 - 組屋町バス停下車、徒歩3分  
 駐車場 - 美術館地下に公営駐車場 (有料、乗用車144台収容)